

		・〇感元健康相談(り)家庭教育学級		・〇感元健康相談(り)家庭教育学級	
事務事業名	家庭教育学級事業	事務事業No.	20302000610	所属課	生涯学習課
(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?					
<ul style="list-style-type: none"> 子育てやしつけについての学習の場、悩みを話し合える場として家庭教育学級ができた。市としても家庭教育学級に対し相談対応・支援を開始した。 市補助金の交付方法にばらつきがあったが、平成19年度から一律の基本金と児童生徒数の人数割りで各小中学校家庭教育学級に補助している。(市補助金検討委員会からの答申を受け、平成27年度より各学校の児童生徒数に合わせた人数割りで補助金額を交付することとなった。) 					
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?					
<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士が仲良くなりお互いの悩みを打ち明けられてよかった。子どもとのふれあいで楽しい時間が過ごせた、などの声がある。また、保護者同士の交流の場を設けたいとの意見がある。 補助金について、有効に活用される方法を考える必要がある。 参加する保護者が固定化してしまっている部分がある。多くの、多様な保護者に参加できるようにしていきたい、との声が学校から上げられた。 					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	① 政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 保護者の家庭教育上の話し合いの場及び問題解決を支援する目的で開設されており、結果として子どもの健全育成に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 家庭教育とはすべての教育の出発点であり、子どもの健全な身体と人格の発達のために子育て世代へ「家庭教育」関係の学習活動をサポートする必要があるため、妥当である。
	③ 成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 各学校単位で行っている家庭教育学級に対して必要があれば助言、指導が必要である。コロナ禍で間があいてしまったので、以前と同じような形で家庭教育学級が実施できるように工夫、改善していく必要がある。
有効性	④ 廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 小学校及び中学校入学時・義務教育学校7年生進級時に、親として自分自身を見直す大事な学習機会であるため、廃止・休止はできない。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 他に類似事業がない。
効率性	⑥ 事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 学級生(保護者)からも負担金を徴収しているため、市補助金を削減することは難しい。
公平性	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である すべての小中学校・義務教育学校で実施されており、公正・公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇨	・各小中学校・義務教育学校での家庭教育学級は、それぞれの学校の実情に合わせた学習が展開されているが、改善が必要な学校もある。 ・就学前での家庭教育講座、家庭教育学級の実施を県から求められているが、幼稚園や認定こども園との調整が難しい。就学前の家庭教育支援について保健福祉部との連携により充実させていきたい。																						
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																						
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下			×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持			×																				
	低下			×																				
学校の職員と家庭教育学級長が協力して計画を立てているので、学校の職員の事業理解が必要である。合同説明会だけでなく、個別の説明も行う。また、講話を行う際には、保護者や学校のニーズに合ったものを実施できるよう、事前の打ち合わせや調整をする。また、家庭教育の重要性を保護者や学校がより理解し、実践に移すことができるようにする。		(6) 事務事業優先度評価結果																						
		成果優先度評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	確認欄 <input checked="" type="checkbox"/> 確認